

魔樓の沼

前原の阿弥子の沼に咲く黄蓮は

哀しき少女のロマン秘つづ

梅雨時期だというのに珍しくもおぼろ夜で沼一面に所せましと水蓮が浮かび、昼間のヨシキリの声も消え静かな夜でした。沼には一隻の田舟が浮かび、豪農の次男信二と信二の家の作男（使用人）の一人娘小夜が乗っていました。青春の血燃える二人に

は、この沼を田舟で毎夜一周するのが何よりも楽しみだったのです。よう、やがて、明るい性格の小夜は、病弱な信二の子を身ごもってしまいました。た……

植えつけの終った七



月初めの沼に、一隻の田舟が浮んでいました。舟の中にはいくつかの玉石と、縫い糸と針がのこされていました。昔の事ですから結婚することはとても許されるはずありません。二人は浮き上がらぬように、たもとに石をつめ、はなれぬようにしっかりと縫いあわせ沼の底へと沈んでいきました。

お盆ちかい頃、沼一面の紅白のハスの花にまじって、三葉の黄色いハスの花が咲き、その真ん中の一葉だけはつぼみのままであったといわれています。三人の靈魂が地上の人々におくった珍らしい美しい花でしたが翌年にはもう咲かなかったといわれています。

恐しくばたずねきてみよ沼ほとり

黄蓮の咲きし由緒ある沼

我孫子沼にはこうした哀しい物語りがあり人命をのむので魔樓の沼ともいわれています。

■我孫子沼：昭和33年ごろまで大字今泉と幕右

衛門新田地内にあった沼で、現在の東中学校

とそこの付近。

